

第2回「歩いて楽しいまちなか戦略」推進会議 摘録

1 日 時 平成23年7月25日（月）16:00～18:00

2 場 所 京都ホテルオークラ 3階 翠雲

3 出席者 別紙のとおり

4 議 事

（1）開会

（水田交通政策監）

○お忙しい中お集まりいただき、ありがたい。

○皆様には、日頃から門川市政の推進、「歩くまち・京都」を市民の皆さんに広げていこうという取組に御理解と御協力を賜っておりますことを、この場を借りて心から感謝を申し上げる。

○昨年、四条通の歩道拡幅とまちの賑わいの創出を前提に、バス・タクシー・荷捌き車両・一般交通・細街路の交通処理に関する社会実験を行った。本年7月上旬には平日及び土曜・日曜に74箇所で細街路の交差点交通量調査も行った。

○本日の会議においても皆様の貴重な御意見を頂戴し、四条通の歩道拡幅・まちの賑わい創出が前進していけばと考えている。

（塚口会長）

○「歩くまち・京都」総合交通戦略の多々ある戦略の中で、シンボリックな施策が四条通の交通改善だ。地元・自治会・商業関係の方々、また交通管理者・道路管理者の方々の努力により、平成22年度の実験が行われた。

○当初のスケジュールから若干遅れ気味ではあるが、着実に進んでいる。本日の会合では自分たちの位置を確認しながら、一步一步進んでいく必要がある。

○意見を頂戴しながら終焉に持っていこうと思っているが、皆様方のおおよそ考えておられるベクトルは同じ方向を向いているので、その認識のもと建設的な意見を頂戴できればと考えている。

（2）議事

■平成22年度四条通の交通社会実験の実施結果について

（事務局説明）

（堀池歩くまち京都推進室長）

- 少し補足をさせて頂きたい。今回の社会実験は四条通の都市計画決定に向けて、四条通の車線減少、歩道拡幅における課題について考え得る対策を行った。
- それぞれの社会実験からはある一定の効果が確認されているが、この結果だけから都市計画決定に至る訳ではないと認識している。
- 現在、この実験以外にも四条通に関するデータ収集・将来分析等を全力で取り組んでいるところであり、本日は社会実験の結果報告であるが、委員の皆様からは幅広い観点から御意見を賜ればと考えている。

（塚口会長）

- 今回の結果報告は、当面は都市計画決定に至る準備ということなので、社会実験に留まらず幅広い御意見を頂戴できればと思う。

（堀部委員）

- 荷捌きについてお話させて頂く。御案内の通りの実験を行ったが、結論的には物流業者の企業努力だけではなく、地元である荷主の努力も必要だということである。二箇所の荷捌き場での実験で思い通りの結果が得られたので、企業と地元との協力が何より必要と確認した。
- 自転車については、案内と誘導を上手く行えば成功するのではないかというのが実感だ。
- 自動車流入を抑制する実験については、車両が減った分、お客が減ったと短絡的に考える場合もあるが、交通量調査を経年で行っており実験前から徐々に減少傾向にある。実験自体がお客の減少に繋がったという結果にはなっていないだろう。
- K I C S のクレジット売上を通じて見ても、お客・売上の減少は共に自然な減少で、実験のせいでは減少したわけではないように思う。

（山田副会長）

- 昨年度の荷捌きの実験では午前中集約、路外荷捌き施設の設置により一定の効果を得られた。しかし 10～12 頁にあるように効果が小さいのではないかとということもあるが、路外荷捌きにおいては 3 社の協力から始めたものである。参加企業が増えてもう少し拡大し、システムを恒常的に機能させることができれば、効果は大きくなると考えられるので、少しでも減少したことに意味がある。
- タクシー車両が増えているが、タクシー実験とは別期間だったので、同時に行えば効果は更に大きくなるだろう。
- 物流WGの今後の方向性としては、荷主・物流業者のより一層の協力で路外荷捌きシステムを確立していくことが検討課題である。

○公共交通優先にしても、来訪者が減少していないことは安心した。

○「歩いて楽しい」と謳っているのでシェアード・スペースの実験結果で「楽しい」という回答があったことは重要で、今後はもっと楽しさが増えたかどうかの確認も必要となってくる。

（塚口会長）

○荷捌き実験は従来、費用面等の関係から短期間になりがちであるが、今回は長期間実施して頂けた。取組が恒常的になれば効果が大きくなる。荷主・物流業者といった関係者の努力が必要だが、長期間行くと効果も大きく変化するだろう。

○効果の大小より、改善効果が見えるということが重要である。

○また、長期間行うのであれば協力するという業者も多い。

（富永委員）

○荷捌き実験については一定効果があるようだが、四条通で減少した分、細街路の集約場所付近で混乱したということはないか。

（事務局）

○平成20年と平成23年で細街路の出入口の交通量比較は行っており、交通量自体は減少している。今回の荷捌き利用実態からは特に路外荷捌き場付近で交通量が増加しているといった結果は見られない。ただ今回はまとめをご報告しているので詳細なデータについては掲載していない。

（富永委員）

○都市計画決定に向けて、歩道拡幅が趣旨で調査したということだか、車道を阻害することについてはどうか。

○具体的な道路の機能をどうするかという視点に立ってのデータの構築等は考えているのか。

（事務局）

○実験から直ちに都市計画決定ということではない。この結果を踏まえながら、四条通の持つべき機能面について他の資料も検討しているところである。

（富永委員）

○理念は何なのか。具体的な形が分からない。

○先日、京都新聞で「京の抜け道 車減らせ」という記事があったが、四条通の歩道拡幅による車線減少で車両が細街路に入ってくることをミスリードするような報道にも繋がっているのではないか。

○公共交通優先ということだが、歩道拡幅に向けた調査や結果、導きといった説得力のあるデータの解析を行い、失敗しない施策準備が必要だ。

（堀池歩くまち京都推進室長）

○データでの現状把握は重要であり、7月に地元で協力いただいて調査を行った。現在集計中であるが、この結果で細街路の状況や課題を把握し、将来分析し改めて報告をしていきたい。

（塚口会長）

○今回提示していない分析結果について、後日報告していただきたい。

○調査を通していくつかの点が明らかになってきている。荷捌き実験の効果で荷捌き車両は減少したが、路外荷捌き場設置による周辺への交通影響はどうなっているのか。

○荷捌き施設の整備と午前中集約により効果が出た。タクシーも努力していただけるとのことなので、本日のデータ以外の効果も出ると期待できる。

○歩道拡幅により車道の容量が確実に低下するが、荷捌き車両とタクシー駐停車等が削減できれば、少し地元で不便をかけるがカバーしていけることを丁寧に説明すれば良い。

○「歩くまち・京都」憲章により、公共交通と徒歩中心の「歩いて楽しいまち」にするために市民と合意形成を謳っているため、多少の問題はあるかもしれないが前進する方向で検討すべきだ。全てのデータを分析することも重要だが、丁寧な説明によりご理解いただけないかと個人的に思っている。

（富永委員）

○歩道拡幅によりデメリットを解消することが本旨なのか。拡幅により賑わいは創出するが、無駄な交通をなくし、どう公共交通を優先させるのかという部分はどうか考えるのか。

○公共交通優先であるならば、今まで一車線が潰れており中央車線を走行している四条通のバス機能は改善されるのか。

（水田交通政策監）

○元来、賑わいのある歴史的都心地区にしていく過程の中で、四条通のトランジットモール化の議論からスタートしたが、現在の日本の道路交通法上可能かと言われると皆様のご承知の通りだ。

○公共交通であるバスが優先で走るまち・道づくりを行い、そこに多くの人が訪れ、賑わいが生まれれば、自ずと歩道の拡幅に繋がると考えている。

（松本委員（代理：山口担当部長））

○四条通の賑わい創出のために色々な地域からお客様を運びたいので、バスの系統も一本一本検討

していきたい。

- バス事業者としては、6 頁にあるグラフが均一となるような一定速度でスムーズなバス運行を望んでいる。

（岡田副会長）

- データを、平成 20 年 11 月 18 日を基準として揃えているが、紅葉のシーズンで交通量の多い時期である。
- 今回の実験としては、今回の使用制限ではタクシーは効果なし、荷捌きは明確に効果があり、バスは少し効果あり、一般周知は効果が見えてないと言えるのではないかな。今回の社会実験のメニューで効果があるもの、ないものを分けて考えた方が見えてくるのではないかな。

（事務局）

- 岡田先生の御指摘どおりで、更なる分析を行っていく。
- タクシーにおいては、路上駐停車台数に注目し、乗り場制限を行ったため、流しが増えて交通量が增加するという結果となった。

（山田副会長）

- 路外荷捌きシステムを導入すると、トラックが一箇所に集中し交通問題が発生する可能性があるということだと思う。
- このシステムの前提は、ヤマトのように民間業者でもビジネスになることを考えている。このエリアで一箇所しか路外荷捌き場がなく、かつ従来どおりの小さなトラックでその施設に集中するというシステムであれば、先述のような問題もあるが、恐らくそのやり方ではコスト高で採算に合わない。
- 他都市の事例でもトラックを集約化し、複数拠点を設け、そこから合理的に荷物を運ぶものが殆どであるため、大きな問題はないと考えている。
- ただし、それを今回の実験で数値的に得られたわけではないので、今後シミュレーションが必要となってくると思う。

（石野委員）

- タクシーの駐車が多い。物流車両が減ればタクシーが増える。警察はどう対処するつもりなのか。

（秦委員（代理：福本交通課長））

- 交差点付近での駐停車違反は本年だけで百数件の検挙をしており、今後も強化していくつもりである。

（石野委員）

○タクシーは生活がかかっていると言うが、それではいけないのではないか。四条通は終日とは言わないが一車線潰している。これは警察の仕事ではないのか。

（富永委員）

○ここ十数年重点的に取締をしてきた。タクシー運転手が乗っていると違反とできないので、私服で張り込みをしている。

○平成8年からタクシー業界と運輸支局も含め協議している。四条以外に京都駅、河原町等でも指導を行っているが、駐停車禁止場所でも乗降する利用者側にも問題があるので、市民も含め協力していく必要がある。

（浪越委員）

○運輸局も認識しているので、引き続きタクシー会社に啓発をしていきたい。

（塚口会長）

○タクシー団体の方にも、もう少し頑張っていただかないといけない。

○四条通のルールはこの場で議論し、今後、時間がかかるだろうがこの場で決めていく作業である。

（山本委員）

○実験の報告はあったが、今後のスケジュールについて確認させていただきたい。

（吉田担当部長）

○年内に都市計画決定をいただき、その後、認可を経て詳細設計に着手していく予定である。

（澤田委員）

○物流実験を四条で行うと、大丸の裏側や蛸薬師にトラックが止まり、交通の便が悪くなるのは何とかしていただけるのか。

（水田交通政策監）

○荷捌きは大事な視点であると認識している。荷主の協力があり手法が進展している。

○一箇所集中でトラックが道に止まったままでは通過交通抑制以前の問題なので、幅広い視点で検討し、協議していく必要がある。

（石野委員）

- 路外荷捌きという取組に少し誤解があるようだ。四条通での長時間に渡る荷捌きを排除し、ヤマトが行っているように一箇所に荷物を落として台車で運ぶ形にしていく。細街路上で行うのではない。

（堀部委員）

- 通行量が増加した訳でなく、自然な流れということだ。年内に都市計画決定だが、幅員・区間・車線数が明確化していれば良いと考えている。とりあえず都市計画決定して問題点を議論するという形でどうか。
- 荷捌きに関しては、ヤマトは既に実行しており、佐川も検討している。まずは一刻も早い実現が必要である。経済界・市会の理解も得ている。おおかたの理解を得たので、まず都市計画決定をお願いしたい。

【とりまとめ】

（塚口会長）

- 平成 22 年度社会実験の結果を紹介していただいた。荷捌きを中心に効果が出ていることを確認できたが課題も明らかになったので、新たに詳細な分析をお願いする。
- 四条通の歩道拡幅は手段であり、目的は四条だけでなく歴史的都心地区に行き渡る面的な賑わいの創出である。市民にも目的を説明していく必要があるので、立ち戻って検討してほしい。
- 自動車流入の抑制による来街者数の変化はなかったということは、力強い結果となった。歩道拡幅による来街者の増加を目指す。
- 11 月の都市計画決定に向けて、できるだけ丁寧に審議会や市民に説明できる準備を、事務局には頑張ってもらいたい。小異を捨てて大同につくというように、一歩前進するようにお願いしたい。

（３）閉会

（堀池歩くまち京都推進室長）

- 本質的で貴重な御意見・御議論をいただき、ありがたい。
- 四条通の歩道拡幅、公共交通優先化は手段であり、目的はこの地域で商売をしている商業者の皆様、地元住民の皆様、この地域を訪れる市民や観光客の皆様三者全てにプラスになることが重要である。そのためにも市民にきちんと説明をし、データの分析を真摯に行っていくので、委員の皆様には引き続き御理解、御支援をお願いする。

(別紙)

「歩いて楽しいまちなか戦略」推進会議 出席者名簿

分 野	所 属 ・ 役 職	委 員 氏 名	出欠	備 考
学識経験者	立命館大学理工学部教授	塚口 博司	出席	
	京都大学公共政策大学院教授	岡田 知弘	出席	
	京都大学大学院工学研究科准教授	山田 忠史	出席	
商業関係者	京都商店連盟会長	早瀬 善男	出席	
	京都商店連盟中京東支部支部長	宇津 克美	出席	
	京都商店連盟中京東支部まちづくり委員長	石野 猛	出席	
	四条繁栄会商店街振興組合理事長 (合同会社K I C S代表社員四条繁栄会商店街振興組合職務執行者)	堀部 素弘	出席	
	河原町商店街振興組合理事長	宇治田 脩孟	欠席	代理 事務局 小川 清太郎
	株式会社高島屋京都店総務部総務担当部長	大井 義雄	欠席	代理 庶務グループマネジャー 佐々木 裕記人
	株式会社大丸京都店業務推進部マネジャー	大橋 弘司	出席	
	株式会社藤井大丸業務推進部課長	内藤 篤	欠席	
自治連合会	日彰自治連合会会長	澤田 實	出席	
	生祥自治連合会会長	山田 清三郎	出席	
	豊圖自治連合会会長	出島 昭男	欠席	代理 副会長 中村 虎生
	開智自治連合会会長	大森 延三九	欠席	
関係団体	「歩いて楽しいまちなか戦略」における駐車場問題対策協議会会長	津田 和雄	出席	
	京都府旅館ホテル生活衛生同業組合理事長	北原 茂樹	出席	
交通事業者	京都タクシー業務センター代表幹事	横山 末松	欠席	
	社団法人京都府トラック協会専務理事	浅井 孝司	出席	
	京都市交通局自動車部長	松本 建次	欠席	代理 担当部長 山口 雅直
国土交通省	近畿地方整備局建政部都市整備課長	山本 慎一郎	出席	
	近畿運輸局企画観光部交通企画課長	浪越 祐介	出席	
	近畿運輸局京都運輸支局首席運輸企画専門官	足立 高広	欠席	
京都府警察	警察本部交通部交通規制課長	富永 良介	出席	
	五条警察署長	秦 睦人	欠席	代理 交通課長 福本 徹
京 都 市	交通政策監	水田 雅博	出席	
	都市計画局土木技術担当局長	河嶋 敏郎	出席	
	都市計画局歩くまち京都推進室室長	堀池 雅彦	出席	
	都市計画局歩くまち京都推進室事業推進担当部長	吉田 良比呂	出席	
	都市計画局歩くまち京都推進室土木技術担当部長	中村 豊彦	出席	
	行財政局サービス事業推進室長	安西 伸一郎	欠席	
	産業観光局商工部長	山本 達夫	出席	
	建設局建設企画部技術総括担当部長	横木 孝司	欠席	
	建設局土木管理部長	山田 信祐	出席	
	建設局土木管理部自転車総合政策・公物管理担当部長	高溝 良輔	出席	
	建設局道路建設部長	古川 衛	出席	
	中京区役所区民部長	真下 清	出席	
	下京区役所区民部長	松森 敏郎	出席	